



楽器を通して世界を知ろう!! 楽器博物館ギャラリートーク



当館では毎日数回、展示品の解説を行っています。この解説は 1995 年の開館以来続いているもので、当初は古い鍵盤楽器の演奏と解説をすることで楽器の音や歴史についてお客様に知ってもらうためのものでした。現在では鍵盤楽器だけでなく、アジアやアフリカ、アメリカなどの楽器も紹介しています。楽器 1 つを探求していくと音楽のことだけでなく、その地域の生活や民族性、他の国との関連などを垣間見ることができます。

例えばインドネシアのジャワ島で使われているガムランは、もともと宮廷音楽として発展してきましたが、その後、庶民の間に広がり、結婚式やお祭りの時も演奏します。ガムランだけで演奏することもあれば、踊りや歌、ワヤン・クリという影絵人形芝居の伴奏としても使われます。ワヤン・クリは影絵ですので、日中ではなくあたりが暗くなってからランプに火を灯し、スクリーンを照らします。水牛の皮でできた精巧な彫刻が施された人形を使い古いインドの物語などを人形遣いが語ります。また、ガムランには小さきさまざまなサイズのこぶの付いたゴングが使われますが、このこぶの付いたゴングはインドネシアだけでなく、近隣のミャンマーやタイなどでも使われています。これらのゴングは青銅でつく

られ、東南アジアでは地域ではよく見られる形です。

また、アフリカの親指ピアノはアフリカ大陸の中でもサハラ砂漠よりも南の地域で使われている楽器です。アフリカ大陸には 50 以上の国があり、民族も多様で言葉もそれぞれ違います。言葉が違えば楽器の呼び名もかわるので、親指ピアノは 100 以上の呼び名があるといわれています。日本語では「親指ピアノ」と呼ぶように、親指で細い金属片をはじいて音を出します。日中に木陰で涼みながら演奏をしたり、宗教的な儀式で使ったりといろいろな場面で使われます。楽器に人の顔が彫刻されているものもあります。祖先の顔を彫刻し、亡くなった人を偲んでいたのか、ただ単に近所の人顔を彫刻したのかかもしれませんね。

来館されたお客様からは「音が聴けてとても良かった」「前回来た時とはまた違う楽器の解説が聞けてよかった」といった声をいただいています。

このような解説とは別に日曜日には 30 分程度かけて、いくつかの楽器を紹介するガイドツアーも開催しています。ギャラリートークやガイドツアーでは、楽器に秘められた物語をお客様と一緒に紐解いていくプログラムです。ご来館の際には是非、参加してみてください。

レクチャーコンサート No.162

「テグム散調～韓国古典音楽の粹～」



日 時：平成 26 年 6 月 6 日（金） 19:00～21:00
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：キムヒョンミン、リチャンソプ、パクソニョン
入場者：61 人

イースト・テネシー州立大学のブルーグラスバンドをお迎えし、レクチャーコンサートを開催しました。同校はアメリカで唯一ブルーグラス音楽科がある大学で、その中でもトップクラスの現役大学生 6 人と先生に演奏していただきました。そして、解説は渡辺三郎さんにお越しいただきました。

ブルーグラスという演奏スタイルはヨーロッパからの移民がアメリカの南部アラバチアに故郷の伝統音楽や楽器を持ち込み、それにバンジョーが加わって演奏され始めたストリングバンド音楽が直接のルーツです。使用する楽器はマンドリン、バンジョー、フィドル、ドブロ、ギター、ベースです。フォスター作曲の「Oh! Susanna」やブルーグラスのスタンダードナンバーのひとつである「Lonesome River」、メンバーのサヴァンナ・ヴォーンさん作曲の「Oh, My Got」などが披露されました。カントリーミュージックの明るく軽やかな演奏と、透き通るような歌声に魅了されました。

レクチャーコンサート No.164

「21 世紀の新地平～ピッコロ・ヴァイオリン～」



日 時：平成 26 年 6 月 25 日（水） 19:00～21:00
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：古舘由佳子、ユーリー・コジェバートフ、川島佳子
入場者：38 人

テグムの名手、キムヒョンミンさんとチャンゴ奏者のリチャンソプさん、コムンゴ奏者のパクソニョンさんをお迎えし、韓国の伝統音楽を紹介しました。

テグムは竹でできた横笛で、世界の横笛の中でも特に大型です。そして、吹き口と指孔の間にある孔には葦の茎の薄皮が張られています。これが振動してビリビリと鳴り、韓国特有のヴィブラートともあいまって、独特な音色を奏でます。心を揺さぶるようにじんわりと響く音色を聴いていると、「テグムには神通力がある」という韓国の伝説も真実なのではないかと思われました。プログラムは李朝時代の知識層の音楽や宮中音楽から始まり、後半は庶民の音楽へと移りました。即興的な感情表現で演奏する「散調」や民謡「アリラン」の演奏、また各楽器の歴史についても丁寧に解説していただき、韓国の伝統音楽をじっくりと味わうことができたコンサートでした。

レクチャーコンサート No.163

「ブルーグラス・プライド～アメリカ音楽のルーツ」



日 時：平成 26 年 6 月 18 日（水） 19:00～20:30
会 場：楽器博物館天空ホール
出 演：イースト・テネシー州立大学ブルーグラスバンド
ザック・カーター、ゲイリー・ホルトマン、カイル・マーフィー、
ジョッシュ・ライフ、サヴァンナ・ヴォーン、ベン・ワトリントン、
ダニエル・ポナー（学部長）
入場者：88 人

ヴァイオリニストの古舘由佳子さん、ピアニストのユーリー・コジェバートフさん、そして解説に川島佳子さんをお迎えして、21 世紀の新しい楽器として注目されているピッコロ・ヴァイオリンのコンサートを開催しました。

ピッコロ・ヴァイオリンは古くから存在し、通常のヴァイオリンより 4 度高く調律されていました。今回演奏していただいたピッコロ・ヴァイオリンは現代、新しく考え出されたタイプで、通常のヴァイオリンより 1 オクターブ高い調律で、一番高い弦（E 線）には NASA の技術を使って実現した 0.178mm という細さの特殊な弦が使われています。音色は高いだけではなく独特な伸びと艶があり、美しい響きが特徴です。古舘さんはジブシーヴァイオリンの名手でもあり、通常のヴァイオリンでも馴染みのある名曲から軽快なジブシー音楽まで様々な曲を演奏していただきました。ピッコロ・ヴァイオリンは速い曲とゆったりとした曲で違う響きが出てとても魅力的な音がしました。

今に伝わる古式の舞楽 ～天宮神社十二段舞楽・取材ノート～

当館では浜松市周辺地域をはじめとした伝統芸能の調査・記録を行っています。本年は4月6日（日）に行われた静岡県周智郡森町の天宮神社に伝わる十二段舞楽を取材しました。天宮神社の十二段舞楽は、同町に伝わる小國神社の十二段舞楽、山名神社の天王祭舞楽とともに国の重要無形民俗文化財に指定されています。森町の十二段舞楽の起こりは、古代より行われたとされていますが、明確なことは分かっていません。現存する資料によると「小國神社において1590（天正18）年よりも以前から行われた。」という記録があります。森町の十二段舞楽の特徴は、奉納舞楽として行われること、十二の演目のうち半数ほどは男児の童舞であること、中央とは異なる形で音楽や所作などが残され土着していることが挙げられます。舞楽は、宮中や大寺社などで盛んに行われ、次第に諸国へと広まりました。長い年月を経て今なお残されていることから、地域の人々が伝統を守り伝える尊さを感じさせられます。本年も春の清々しい陽気のなか可愛らしい童舞や勇壮な獅子舞などの演目が執り行われました。本取材では十二段舞楽の演目を写真と映像にて記録しました。



日時：平成26年4月6日（日）15:30～21:30
場所：天宮神社（静岡県周智郡森町天宮）

特別展「風に歌う、風に響く～バグパイプの世界～」8/2～30



世界のバグパイプ約50点を紹介する展覧会が開催されます。2011年に開催されたバグパイプ博覧会の続編、パート2です。日本では、バグパイプと言えば、イギリスのスコットランドの軍隊や王室、民間で使われるハイランド・パイプが最も有名ですが、世界には、その他にも多種多様なバグパイプがあるのです。バグパイプの基本3要素は ①空気をためる風袋 ②メロディーを奏でる笛＝チャンター管 ③持続した低音を鳴らす笛＝ドローン管。空気を風

袋に送る方法には口で吹き込む方法と、ふいごで送り込む方法の2つがあります。またチャンター管には指孔があいただけの単純な構造のものから、たくさんのキーが付いた複雑なものまでさまざまです。音量も耳をつんざくような大きなものから、室内で静かに聴く小さなものまでいろいろ。会期中8日19時からと9日18時からイブニングサロンコンサート（有料）、9日と10日の昼間は展示室でミニコンサート（入館料が必要）が行われます。

楽器ワンポイント講座 その3

「水を使う楽器」

今回は暑い夏にぴったりな「水」を使う楽器をご紹介します。

まずはヨーロッパのミュージカルグラス。グラスの縁をぬれた指で擦ると涼やかな音がする楽器です。大小さまざまなサイズのワイングラスに水を入れて音程を調節します。水をたくさん入れると音が低くなります。次はアフリカや南アメリカのウォータードラムという太鼓。太鼓といっても皮がはられているわけではなく、ヒョウタンの殻を叩いて音を出します。半球に切ったヒョウタンやタライに水を入れ、一回り小さなヒョウタン（半球型）を逆さにして水に浮かべます。手やバチで叩くとしっかりとした太鼓の音がするのです。そして、日本の水琴窟（すいきんくつ）。見た目は高さ 60cm ほどの大きな壺です。中は空洞で、壺の頂上には小さな穴があいています。土の中に埋めておき、滴り落ちた水が壺の中に溜まっている水に落ちて「ぼちゃん」と鳴り、その音が美しく反響します。

暑い夏には涼しい音で涼むのもいいですね。



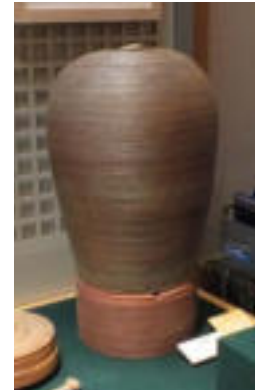
ミュージカルグラス



ウォータードラム（アフリカ）



ウォータードラム（南アメリカ）



水琴窟（日本）

博物館日誌

- 6/6 (金) レクチャーコンサート
「テーグム散調～韓国古典音楽の粋～」
19:00 天空ホール
出演：キムヒョンミン、リチャンソプ、パクソニョン
入場者：61人
- 6/18 (水) レクチャーコンサート
「ブルーグラス・プライド～アメリカ音楽のルーツ～」
19:00 天空ホール
出演：イースト・テネシー州立大学ブルーグラスバンド
入場者：88人
- 6/25 (水) レクチャーコンサート
「21世紀の新地平～ピッコロ・ヴァイオリン～」
19:00 天空ホール
出演：古館由佳子、ユーリー・コジェバートフ、川島佳子
入場者：38人

これからの催し物

- 展示室ガイドツアー 毎日曜日 展示品の解説
※催し物により変更もあります
- ギャラリートーク 毎日数回 展示品の解説を行います
- 特別展
バグパイプ博覧会パート2「風に歌う、風に響く～バグパイプの世界～」
8/2 (土)～8/31 (日) 会期中にミュージアムサロンを開催します
- イブニングサロンコンサート
「アフリカの魂・バラフォン」
8/4 (月) 19:00 天空ホール 出演：ムッサ・ヘマ
「バグパイプの世界パート1 バグパイプ、その多采な仲間たち」
8/8 (金) 19:00 天空ホール 出演：近藤治夫、山根篤ほか
「バグパイプの世界パート2 バグパイプの歴史と文化～ダンスを交えて」
8/9 (土) 18:00 天空ホール 出演：近藤治夫、山根篤ほか
- ワークショップ
「韓国の太鼓チャンゴを演奏しよう！」
7/26 (土) 18:30～21:00 研修交流センター
講師：リチャンソプ

「雅楽の楽器 ひちりきを吹こう」

7/27 (日) 13:30～15:00 研修交流センター
講師：中村仁美

「インドネシア ジャワ島のガムラン入門」

8/29 (金) 18:30～21:30 楽器博物館展示室
講師：ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実、西岡美緒

「インドネシアのジャワ舞踊～入門編～」

8/30 (土) 9:30～12:00 研修交流センター
講師：西岡美緒

「インドネシアの影絵人形 ワヤンを作ろう！」

8/30 (土) 13:30～16:30 研修交流センター
講師：ローフィット・イブラヒム、佐々木宏実

● ミュージアムサロン 14:00&15:30 (天空ホール)

7/20 (日) 「アンクルンを弾こう！」(14:00)
出演：当館職員

7/21 (月) 「アンクルンを弾こう！」(14:00)
出演：当館職員

7/27 (日) 「チャンゴ」 出演：リチャンソプ

8/3 (日) 「ブルーグラスバンド」
出演：カントリーフロンティア

8/9 (土) 「バグパイプ」(10:00～16:00)

8/10 (日) 「バグパイプ」(10:00～15:00)

8/16 (土) 「クラリネットアンサンブル」
出演：浜松クラリネット・クワイアー

8/17 (日) 「オカリナ」 出演：音心（えんじろう、亮子）

8/31 (日) 「サクソフォンアンサンブル」
出演：浜松サクソフォンクラブ

9/7 (日) 「金管アンサンブル」
出演：ハママツブラスアンサンブル

浜松市楽器博物館だより

平成 26 年 7 月 1 日発行 No. 90

編集 浜松市楽器博物館

〒430-7790 浜松市中区中央 3-9-1

TEL 053-451-1128 FAX 053-451-1129

E-MAIL wakuwaku@gakkihaku.jp

URL <http://www.gakkihaku.jp/>